

2024能登半島地震・豪雨災害

能登 スタディツアー 2025 報告書

次の災害に対して私たちは何ができるのか



2025.7.29-31

訪問先

石川県珠洲市
輪島市

参加 横浜市立

横浜総合高校 戸塚高校定時制

横浜商業高校 みなと総合高校

能登スタディツアー

【背景】

大規模自然災害はいつどこで発生するかその予知は難しく、発生した場合多大な被害を受けるとともに物的精神的人間関係的等多様な課題に直面する。2011年東日本大震災の年から断続的に行われている高校生による大規模災害復興

支援活動の一環として被災地を実際に見学し、より深く関心を持って支援活動を行う。同時に自分の住む地位費が被災したときの復興に向けた動きを想定し、実践できるように準備する必要に。

【目的】

2024年、地震、豪雨災害と続いた能登を訪れて自然災害の脅威を体感する。同時に被災直後から復興に向けた今日に至るまでを関係者の方々から話を伺い、その学びを次の被災地に対して、また横浜が被災地になったときに高校生に何ができるのかを考える。

【体験内容】

- ①倒壊した住宅やがけ崩れなど当時の状況が残る珠洲地域の視察
- ②避難所となった学校の話进行
- ③復興に向けた生徒の実践を見る
- ④復興に向けた輪島市やボランティアの活動について話を伺う

【実施までの流れ】

コースと日程

2025年7月29日（火）－31日（木）



【宿 泊】

- 29日 滞在交流施設 日置ハウス
石川県珠洲市折戸町ヌ部
80768-86-2424
- 30日 民宿わじま（男子）
石川県輪島市二ツ屋町2-5-1
0768-22-4243
民宿さかした（女子）
石川県輪島市河井町19-1-72
0768-22-4641

- 30日 9:00 日置ハウス発
10:00 飯田高校 学校被害の視察
12:30 飯田港 津波、陥没被害状況の視察
13:00 珠洲市教育委員会 支援金の寄贈
14:00 塩田村被災状況、海岸隆起視察
15:30 白米千枚田 観光地被害、がけ崩れ
16:00 宿舎着（男女分宿）
17:00 市内復興状況。復興施設視察

- 29日 7:30 横浜駅集合（京急にて羽田空港に移動）
8:55 羽田空港 ANA747便
9:55 能登空港 貸切バスにて珠洲市へ移動
12:00 珠洲市内視察
14:00 宝立仮設住宅 避難所に関する講話
17:00 日置ハウス着

- 31日 9:00 宿舎発
10:00 輪島朝市視察、朝市理事長講話
13:00 重蔵神社禰宜講話、朝市跡見学
16:50 能登空港 ANA750便
18:00 羽田空港着
18:40 横浜駅解散

29日

7:30

【横浜駅～羽田空港】

横浜駅に全員集合、8:55羽田空港発。

8:55

9:55

【能登空港～珠洲市内】

能登里山空港に到着。めだか交通バスにて珠洲に向かう。

運転手のめだか交通、干場社長は当日のすべての経路で震災当時の状況を説明してくださり、想定外の情報を得ることができた。さらに昼食や買い物などにも便宜を図っていただきました。地元の方であり、様々な人脈を持つ社長のおかげで厚みのあるスタディーツアーが始まった。車窓からは多数の小規模の土砂崩れが見えた。倒壊家屋はすでに解体されたのかあまり見られなかった。



14:00

【宝立第2仮設住宅 集会所】

宝立第二仮設住宅集会室にて多田新郎様に話を伺う。仮設住宅は未だに各地に点在して住民の生活が続いている。東日本大震災時の仮設住宅に比べて外見もきれいで、広さも改善されているように思えた。多田氏からは震災当時、宝立小学校で避難所の指揮をとった経験をお話いただいた。多田氏は避難所となった小学校の元校長であり、珠洲市の教育長を務めた方で、避難所の運営には欠かせない立場の人でした。住民と学校との間に入り、避難所で起こる住環境や食環境など様々な課題を比較的円滑に収めた。一方、ボランティアのあり方においては食事、電源の提供など疑問を呈された。

16:00

【見附島】

干場社長の計らいにより珠洲の観光名所である見附島(軍艦島)に案内された。先端が鋭角な船のような形であった見附島はその先端部分が崩れてなだらかな壁面となっていた。島を見渡す公園に設置された鐘塔の土台部分も大きく崩れていた。珠洲を訪れた人たちが必ず立ち寄る観光地として大きな打撃を受けていた。



18:00

【日置ハウス】

珠洲市教育委員会事務局長の紹介により、廃校小学校を改築した同施設に宿泊する。夕食は長島由佳氏を中心にバーベキュー風ディナーを参加者で作る。夜は満天の星をみんなで眺めた。

30日
10:00

【石川県立飯田高校】 <内容は別掲>

嶽桂輔校長先生、村田良和先生のお話を伺う。校舎見学は校舎接続部分の損壊、床のゆがんだ体育館や家庭科室、建物の基礎部分の隆起と崩壊、倒れた門扉など震災の傷跡がそのままの状態が残っていた。校長先生は当時教頭で避難所運営を余儀なくされた経緯と様々な問題点を提示提示していただいた。内容（別掲）はマニュアル通りにいかない実態や人間的な課題をまとめたものであり、驚くものではなく予測される内容なので対応を見直す最良の資料であった。横浜でこの内容を拡散する必要を感じた。ツアー終了後に戸塚高校定時制の生徒が学校で自主的に報告会を実施した。

12:30

【飯田港・公民館】

干場社長の計らいで珠洲市飯田港を見学した。飯田港は地盤沈下により埠頭などが一部水面下に沈んでいた。地面も凸凹であり、未だに港は復興していないとのことでした。漁業関係者が生活の基盤を失うだけでなく地域にも大きな経済的損失を与え、人口流出につながっているとの事であった。

公民館は駐車場に大きな段差が生じたままになっていた。館内には住民やボランティアが後の震災の参考になる内容を時系列で残していた。



13:30

【珠洲市教育委員会】

昨年6月、横浜で実施した「高校生能登億円商店街」セカンドセールと藤沢翔陵高校販売実習の利益を合わせて珠洲市教育委員会に持参した。岸田和久事務局長の計らいにより、4校代表が吉木充弘教育長と面会、懇談した。岸田事務局長には今回のツアー全体に多大な協力をいただいた。



30日

14:00

17:00

【奥能登塩田村・白米千枚田】

能登半島西側の海岸は大きく隆起しており、漁港も海底が流記したことにより、船が陸に放置されたままで操業できなくなっている。観光及び産業でもある塩田も再開できない状況である。道路に関しても、陸側からの土砂崩れと重なり、隆起した元海底部分に新しい道路が作られていた。半島を1周する道路は既に開通したが、急カーブと高低差のある道路となっている。沿線にある道の駅も最低限の営業となっており、トイレに立ち寄る程度で売店や飲食店などの活況は無い。千枚田も一部で稲が植えられているが、背景に見える山の斜面は崖崩れが起きている。



隆起した海岸



白米千枚田



海岸線のがけ崩れ



海岸のがれきの山

【輪島市内・輪島カブール】

夕方より輪島中心部に入る。今回引率を引き受けてくれた同行の横浜商業新宅先生は輪島市出身であり、震災前後の街の様子などを詳しく説明してくれた。新宅先生の説明は単に建物の崩壊についてだけでなく、この地域の伝統的な生活復興や人々の考えにも触れて復興が建物の建て直しに限らず、次世代に向かってどのようなことが必要なのかも解説された。輪島市内は能登でも1番復興が進んでいるが、建物の基礎部分にはまだ崩れたままになっている個所も多く、完全な復興とは言えない状況であった。復興に向けた試みは、輪島市内ではいくつか見られる。その中の1つ輪島カブールという施設は、崩壊を免れた古民家をリノベーションし、温泉、食堂、売店を兼ねた商業施設として有名になりつつある。多くの政界人、財界人などが全国から訪れている。地元の人にも使える施設として今後のモデルとなる。しかし輪島朝一跡は更地のまま、キリコ博物館を始め、多くの施設が閉館したままであり、観光客が訪れるにはまだ時間がかかると思われる。



倒壊した五島屋（震災直後）



（現在）



輪島カブール



輪島カブール

31日
9:00

【輪島朝市・理事長の講話】

観光で有名な輪島朝市は現在輪島市内のスーパーの一画で展開しているほか、出張朝市と称して全国各地を回っている。屋内とはいえ販売している人たちの雰囲気は充分伝わっている。新宅先生の人脈により輪島朝市の組合長である富水長毅氏よりお話を伺うことができた。富水氏は組合長としては50代で若く多くの被災した組合員の生活をいかにするか、また将来的にどのように経営していくかをお話された。過去や風習にとらわれない、富水氏の考えに高校生も様々なアイデアをぶつけることができた。



11:00

【重蔵神社禰宜の講話】

輪島市で1300年の歴史を持つ重蔵神社の禰宜、能門亜由子さんの話を伺う。神社が全壊した中で隣接する朝市会場を案内していただく。更地となった朝市の震災以前の様子と復興に向けての難しさを語っていただいた。能門さんは地域の要として地域の方々とのコミュニケーション作りに励んでおり、様々な人脈を蓄えている。また、外からくるボランティアを束ねる仕事もしており、復興に向けて欠かせない存在である。復興に向けた生徒の質問にも積極的に回答していただいた。

15:30

【能登里山空港—羽田空港—横浜】

18:00

16:50能登空港から飛び立ち、18:00に羽田空港着。
横浜駅解散。



別掲【石川県立飯田高校 校長先生のお話】

～マスコミに出ない避難所の実態と私たちが知っておくこと、備えておくこと～

- ・ 3日後に自衛隊による風呂の提供、時間を決めて入用ができるようになる。
- ・ 神戸市教員の支援組織が到着、学校活動を支援する。
- ・ NPOカタリバによる子どもの世話を支援。

<高校生ができること>

- ・ 年寄りと話をする →コミュニケーション形成。年寄りの介護
- ・ イベントを作る →避難者間のコミュニケーション構築

※他にもあると思われるが時間の関係でここまでの話で終わる。



倒れた校門



校舎の隆起



駐車場の亀裂



校舎間の亀裂



傾いた洗面台



傾斜した体育館の床



家庭科室床中央部の沈下



天井部分の崩落



校舎ジョイント部分の崩壊

お世話になりました。公益財団法人ノエビアグリーン財団様



今回の能登訪問におきましては公益財団法人ノエビアグリーン財団様からの多大な支援により実施に至りました。異なる4校から各2名の生徒募集は学校によっては熾烈な抽選となるなど意識の高い生徒が潜在的にあることがわかりました。内容も避難所の経営、高校の状況、記録の検証、復興に向けた動きなど普段では会えない方々の体験を直接伺えるなどかなり濃いものとなりました。

その結果、課題を持ち帰り横浜で提案する動きや校内で発表するなど発展的に現在も展開しています。この報告書も関係各所に配布します。このような機会を支援していただいたことに深く感謝いたします。

NPO法人体験活動サポート開港場 代表 小市 聡